

## 古代近江湖南の製鉄遺跡群を湖南アルプスより眺める

ナイフリッジの尾根が続く湖南アルプス（太神山・堂山）& 南郷洗堰Walk 2009.7.12.



JR石山駅→バス→湖南アルプス登山口→泣不動⇄太神山[標高600m](往復)→鑑ダム→堂山尾根→  
 11:25 11:50 13:13 14:00 15:03 15:53  
 →堂山・新免分岐→上田上新免バス停→上田上里バス停→バス→南郷洗堰→バス→JR石山駅  
 16:10 17:25 18:05 18:15 19:00



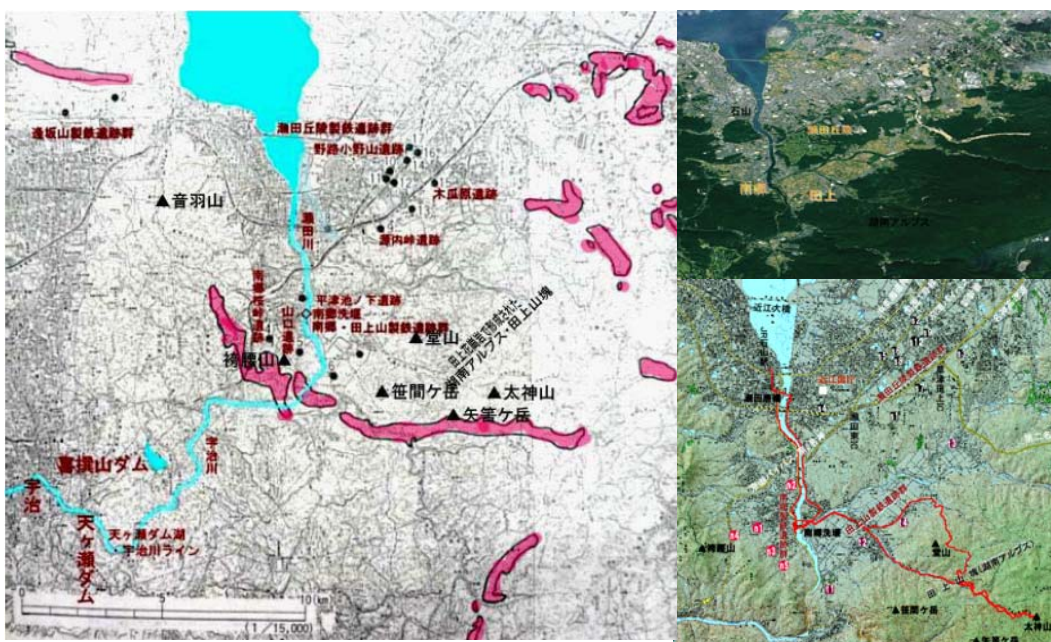
本年5月 宇治の喜撰山ダムを訪ね、宇治川沿いを遊んで、南郷洗堰目前で日没になって帰って来ましたが、ぜひとも関西の水瓶「琵琶湖」の流れ出し口「洗堰」に立ちたいと。

琵琶湖・南郷洗堰を流れ出した水が瀬田川・宇治川と名前を変えながら、西に逢坂山・音羽山の山群 東に瀬田丘陵・湖南アルプスと呼ばれる田上山地の間の狭い峡谷を宇治へ流れ下る。これらの山群は古生層に花崗岩が貫入してできる接触交代鉱床のある近江湖南の鉱物資源帯で古代にはこれらの山々の山裾には出土する鉄鉱石を原料とする古代の製鉄場 南郷製鉄遺跡群 田上製鉄遺跡群 瀬田丘陵製鉄遺跡群が点々と存在する古代近江の大製鉄地帯である。

5世紀後半から6世紀に始まった鉄の国内生産は

近江湖南に分布する接触交代鉱床と湖南の製鉄遺跡群

この瀬田丘陵に作られた官営製鉄場で鉄アレイ型量産炉の開発など古代の製鉄技術が完成され、当時鉄を大量に必要とした重要拠点 東北・九州・北陸などの製鉄へと花開いていった。





このように 日本の製鉄技術が育まれた地であり、それをもたらしたのは太神山（田上山）を盟主として背後にそびえ、荒々しい花崗岩質の山肌を見せる田上山地山から産出した鉄鉱石といわれている。これらの山々はそれほど高くはないが、崩壊が進む花崗岩質の山肌をみせ、湖南アルプスと呼ばれている。この湖南アルプスに登るとその稜線からは、琵琶湖・この製鉄遺跡群そして琵琶湖から流れ下る瀬田川が一望できる。

「湖南アルプスに登って 湖南の製鉄遺跡群をながめ、流れ下る瀬田川を一望して、古代製鉄幕開けのイメージを作ろう。また、これで、琵琶湖から大阪湾に流れ下る瀬田・宇治・淀川のWalk も完成できる」と。



南郷の対岸 黒津から西にそびえる湖南アルプス

左端：堂山 その横奥：三角錐の美しい姿の盟主 太神山 右中央：笹間ヶ岳



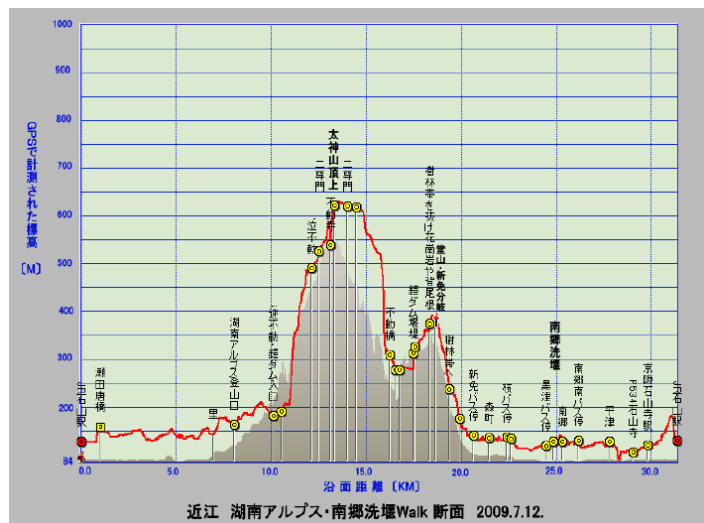
瀬田川・南郷洗堰



湖南アルプス堂山唐の眺め



堂山から瀬田丘陵・琵琶湖



7月12日 梅雨の晴れ間を待ちかねて この近江・湖南アルプス Walkに出かけました。神戸からだ新快速で JR 石山駅まで約1時間 すぐですが、登るのは初めて。湖南アルプスは関西では良く知られたハイキングコースですが、登山道を示したルート図を手に入らなかったのが、今回は盟主で一番ポピュラーな太神山に登って、それから展望の開ける堂山へ登る。そのあとは是非 瀬田川南郷洗関まで歩き、湖南製鉄遺跡群の中のどこかがみられれば・・・と。

ちょっと出発が遅くなりましたが、屋前に JR 石山駅に着き、タイミングよく「湖南アルプス登山口」行の帝産路線バスに飛び乗って、瀬田唐橋を渡って、瀬田川沿いを南下。南郷洗堰のてまえ、黒津から正面に湖南アルプスの山並みを眺めながら東へ田園地帯を抜け、湖南アルプスの麓 太神山からまっすぐ西へ天神川が流れ下る田上へ。

この天神川に沿って 田上の集落を抜け、堂山の麓 山にかかる所が、湖南アルプス登山口だった。



## 1. 田上 湖南アルプス登山口から天神川沿いの参詣道を湖南アルプスの盟主 太神山(高さ 600m)へ



黒津周辺から東に連なる湖南アルプス 左 堂山 右 太神山 帝産バスで JR 石山駅から 田上「湖南アルプス登山口」へ

高さは低いのですが、近江の鉱物資源帯を形成した花崗岩質のやせ尾根が続く湖南アルプス。

その盟主 太神山は麓から見ると 北に堂山 南に矢筈ヶ岳・笹間ヶ岳の荒々しい岩山を従え 天神川がまっすぐ流れ下ってくるその正面奥に三角錐の美しい峯を見せ、その頂上には巨岩の岩盤があり、それにへばりつくように京都清水の舞台と同じ、舞台造りの本堂が建てられている不動寺がある。「田上のお不動さん」とよばれ、古くから信仰をあつめた不動寺がある信仰の山で、麓からみるとそのピラミダルな姿は神々しく見えたに違いない。そして 古代には鉱物資源を求めて数多くの人がこの山中に入ったに違いない。

天神川沿いには琵琶湖側田上の集落から 頂上の不動寺 そして山を越えて 古代 紫香楽宮跡から信楽へとつづく参詣道があり、今も東海自然歩道として整備された森につつまれたハイキングコースである。(東海道自然歩道といっても 天神川沿いの迎え不動から太神山の尾根筋までの山腹を登る道は傾斜のきつい山道である)。



湖南アルプス登り口 天神川林道 2009.7.12.



### 天神川沿いを詰めて 太神山の山腹をよじ登って尾根筋を頂上へ

きつい山腹をよじ登って尾根筋に出ると緑に包まれた森の中 頂上へと続く一本道。途中には 大きな岩に刻まれたお不動さん(泣き不動)そしてまた、その先には 道脇に並べられた赤い涎掛けをつけたお地藏さんが出迎えてくれる。数多くの人たちがこんな山深い細い道を参詣に通ったのだろうか・・・と思い始めた頃 立派な2体の石仏が見つめる不動寺 2尊門。誰もいない森の中 この2体が見つめる間を道が通り抜けてゆく。身がきつと引き締まる。



不動寺 二尊門

200\*.7.12.



そしてこんな山中に広い場所が……と不動寺の境内にはいり、杉の巨木が林立する間を山頂への山腹に刻まれたくの字の急な石段を登ると、突然 舞台づくりの太い柱に支えられた不動寺本堂が現れる。巨岩の壁にへばりついて、崖下に伸びる幾本もの柱に支えられて本堂が建つ。



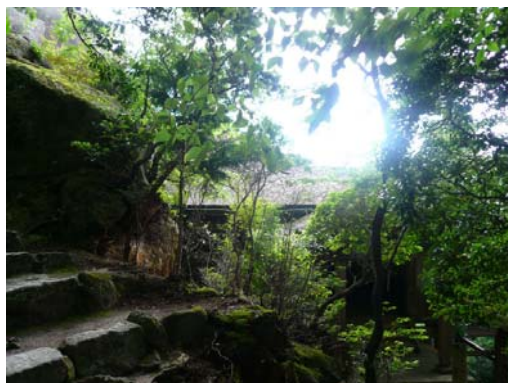
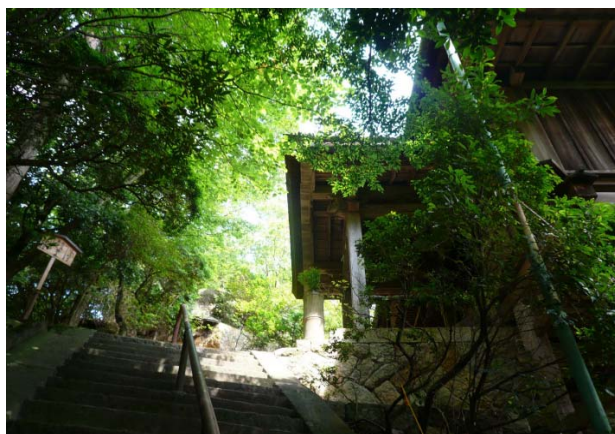
不動寺境内の参道で



不動寺境内

この巨岩が古代からの岩磐信仰の対象。 湖南アルプスの盟主にふさわしい場所である。

この本堂・岩磐の巨岩の横を登りきり、少し行ったところが、太神山三角点。 すぐ近くにも巨岩があり、今は深い樹木で覆われ、展望も効きませんが、このあたりも岩山である。



太神山信仰の中心 頂上崖の巨岩の岩磐にへばり付いて建てられた舞台造りの不動寺本堂 2009.7.12.

標高は 600m と低い山ですが、古代の重要拠点 近江・紫香楽にある信仰の山 そして古代製鉄・鉱物資源帯の背後にそびえる古くからの信仰の山。麓からながめるその姿そして 石仏が出迎えてくれる参詣道 そして頂上部の巨岩・岩磐や不動寺本堂とそれらを包み込む巨樹の森 それら一つ一つがこの太神山が神々しい信仰の山であり、湖南アルプスの盟主であることを示していると。でも 展望が望めないのはやはり残念。

麓から頂が見えることからして、古代には この頂から麓に広がる湖南の平野が見えたのかもしれない。



木々に包まれた太神山からの眺望



太神山頂上部 三角点



## 2. 天神川林道 鎧ダム・堂山登り口から鎧ダムを経て

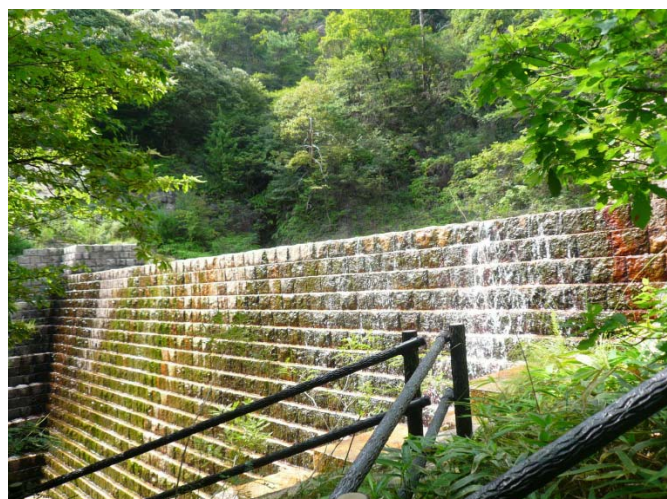
展望の効くやせ尾根が続く堂山(高さ )に登って 田上新免集落に下る



### 天神川林道 迎不動とそこから川を渡って、若女谷に入ってゆく、鎧ダム・堂山ルート

森に包まれた太神山から、もと来た参道道を天神川沿いの迎不動の所まで引返し、天神川の向こうに見える岩山の間の谷若女谷をつめ、鎧ダムから堂山へ登る。この若女谷を詰めて鎧ダムから堂山に上り、麓の田上新免集落に下るコースは、湖南アルプスの名にふさわしく、荒々しい花崗岩質の山肌をむき出しにしたナイフリッジのやせ尾根が堂山へと続く展望が開けたコースで、たっぷりと近江湖南の展望が楽しめる。

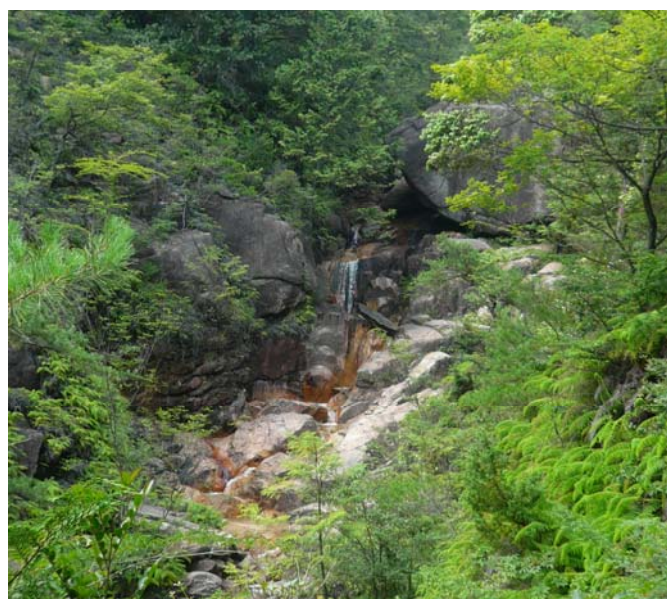
スタート地の若女谷は両側を岩山に挟まれた急峻な谷で、明治の早くから砂防ダムが築かれたところで、オランダ人技師の指導による石積みの堰堤(オランダ堰堤)が築かれている。



若女谷の入口に築かれた新オランダ堰堤 迎不動堰堤



若女谷 正面奥上が鎧ダム周辺



### 若女谷

中央を巨岩ゴロゴロの浅い谷川が流れ下る

急峻な狭い谷 この谷川に沿って 岩の横を登ってゆく



若女谷 鎧ダムへの登山道



この谷筋を詰めたところにオランダ石組堰堤の鎧ダムがあり、地図には湖が記されているのですが、ダムが砂で完全に埋め尽くされている。そして、このオランダ石組堰堤の手前には決壊防止のため、さらに頑丈なコンクリート製の新鎧堰堤が築かれている。この周辺の山のすさまじい荒々しさととの戦いが想像される。

でも 鎧ダムの砂原に立つとどこにそんな荒々しさが隠れているのか 岩山を忘れるほどの緑の山に包まれた静かな平坦地。登ってきたゴロゴロ大きな石が谷筋に散らばる急峻な若女谷 そして 堂山の岩山とナイフリッジのやせ尾根も想像できない。

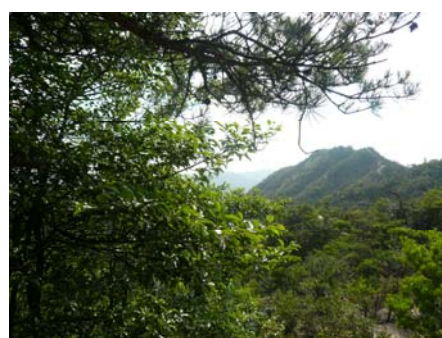
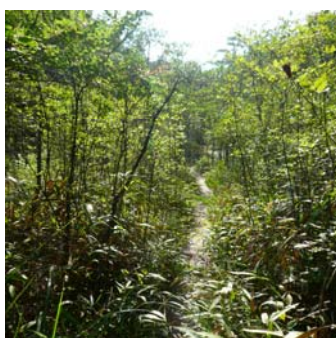


**鎧ダム 五万分の一の地図にダム湖が記載されているが、今は全面砂原が広がっている**

鎧ダムの砂原 かつてのダム湖のほぼ中央部の端から西へ 堂山の尾根筋へ続く道が森の中へと入ってゆく。

林の中のなだらかな道を幾つか上り下りを繰り返すと、突然視界が開け、正面にみえる堂山。

湖南アルプスの名にふさわしい花崗岩むき出しのナイフリッジの上り下りが続くやせ尾根道が見える。そして、琵琶湖・湖南の平野が一望である。



**鎧ダムの砂原 かつてのダム湖のほぼ中央部の端から西へ 堂山の尾根筋へ続く道が森の中へ**



**堂山へと続く尾根筋 一度下って登り返し、堂山の肩の所に出る**

やせ尾根を下って、少し、登り返した堂山の肩のところ、堂山へつづく稜線尾根と田上新免集落へと下る尾根道の T 字路。ここからの眼下の眺めは本当に素晴らしい。荒々しい花崗岩質むき出しの湖南アルプスの幾つもの枝尾根。



そしてその向こうには山裾に広がるかつての古代湖南の製鉄地帯 南郷・田上など湖南の平野と瀬田丘陵。そしてその向こうに琵琶湖 比叡から比良の山並みがぼっかりかすんで浮かんでいる。一番 みたかった景色が 目前に広がっていました。



堂山の肩 田上新免へ下る分岐周辺から眺めた北側 瀬田丘陵・琵琶湖方面の展望



堂山周辺より 瀬田丘陵遠望【1】 中央東西の緑の帯が瀬田丘陵 その奥に背後比叡山がかすむ琵琶湖  
瀬田丘陵の下左上から田上の平野部を斜めに横切る緑の帯が大戸川  
瀬田丘陵の中 右手の建物群のところが古代源内峠製鉄遺跡がある源内峠・龍谷大瀬田キャンパス

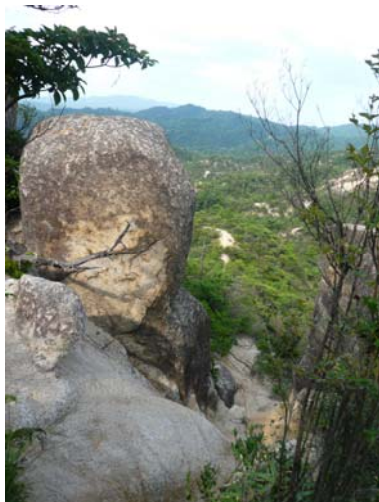


堂山周辺より 瀬田丘陵遠望【2】 丘陵の右端に名神／第2名神の草津 JCT と草津田上 IC が見える  
このすぐ横が木瓜原古代製鉄遺跡がある立命館大草津キャンパスである



北側 琵琶湖の手前には瀬田丘陵が緑の帯として東西に伸び、この瀬田丘陵と湖南アルプスの田園地帯を流れ下る大戸川。そして、瀬田丘陵の緑の帯の中に古代製鉄の地 源内峠 草津木瓜原に建つ現在の先端情報発信基地 龍谷大学や立命館キャンパスが見えました。

新免へのきつい下りのやせ尾根と時間を考え、堂山へは登らず、そのまま新免へ下りましたので、残念ながら南郷周辺は堂山に重なって眺められませんでした。



### 堂山の肩から 田上新免へのやせ尾根をくだる

今回 湖南アルプスへ出かけようと5万分の1の地図を見てビックリ。

湖南アルプスの名のとおり、花崗岩質で崩壊が激しく稜線尾根から枝尾根がいくつも見られるのは解るのですが、登山道が記載されていない。山が低いこともあって、枝尾根が多くナイフリッジの屋背尾根といってもどこでも歩けるのだろうか・・・。

関西では有名なハイキングコースなのですが、インターネット見ると道に迷ったケースが数多く出ている。

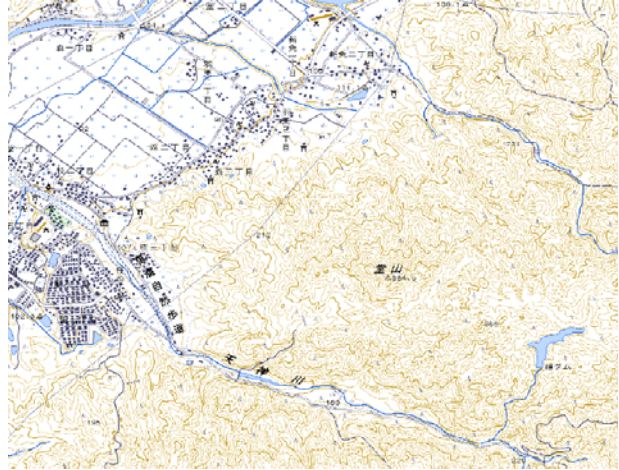
有名なハイキングコース道はしっかりしているのだろう・・・と。

歩いて判ったのですが、道がはっきりしているとはいいいながら、登りでは何にもなく通過できるのでしょうか、標識のないざれ場のきつい下りは厳しい。踏み跡を見失わないように随分気になりました。

太神山で出会った地元のベテランハイカーが言っていました、「湖南アルプスでは5万分の一や2万五千分の一の地図では



役に立たない。1万2500分の一のルート図が入ったやつでないと……」と。  
振り返ると やっぱ中高年が気になる山でした。



### 五万分の一に登山道の記載のない湖南アルプス 低山ですが、下りは要注意

でも 久しぶりに展望を楽しみながらのやせ尾根。古代の湖南の製鉄地帯や琵琶湖が手に取るようでした。  
地図とみくらべながら 古代の和鉄の道にあれこれ想像をめぐらせながらの気持ちの良い Walk でした。

### 3. 堂山の麓 製鉄遺跡の痕跡を探しながら、南郷の洗堰へ



上田上新免集落から見た堂山



田上「里」集落 天神川から 夕暮れの堂山

堂山の北西山麓 上田上の新免集落バス停に出たのが、まもなく日暮れが迫る5時過ぎ。

今回もまた、南郷へゆきつけないか……と。

路線バスの時間を見るとだいぶ待たねばならない。堂山の山裾を田上製鉄遺跡の痕跡を探しながら、天神川べりの田上「里」集落まで歩いて そこから 南郷へのバスに乗る。湖南アルプス堂山を眺めながらののどかな田園がひろがる田上の里歩き。

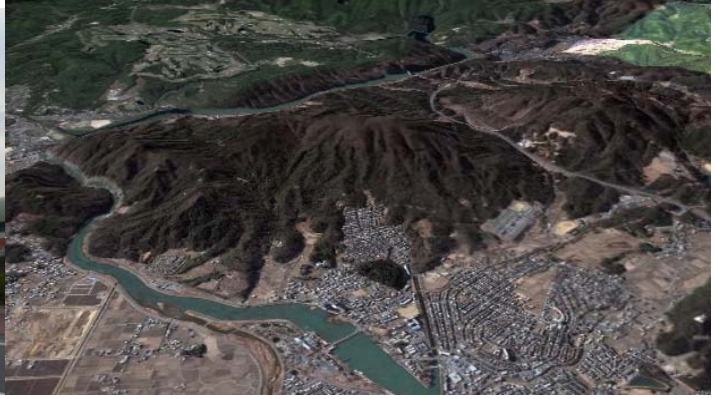
結局、田上製鉄遺跡群についてはもうほとんどわすれられていて、痕跡を聞くことができませんでしたが、夕暮れの心地よい里歩きになりました。

里の集落からタイミングよく路線バスに飛び乗って、南郷の対岸黒津で降りて 南郷洗堰へ一目散。日没寸前に洗堰を見られました。



不動寺で見せてもらった田上の地図に記載されていた森町製鉄遺跡のある森町周辺  
製鉄遺跡の痕跡は田園地帯の集落の中に埋もれて痕跡なし 集落で聞いても もうまったく解らない





東側から南郷へ 洗堰を渡る



南郷洗堰 左: 上流側 右: 下流側



南郷洗堰の上より南郷 右端が袴腰山

洗堰の上から 正面岩間山

南郷の北 平津の街並の後 袴腰山

新聞やTV・ラジオで何度も聞く「南郷洗堰」。本当に何年ぶりでしょうか 少なくとも40年以上 南郷の洗堰をしっかりと見た記憶がない。意外と高低差が小さいなあ……と。でも、やっぱり、巨大な琵琶湖の水を制御する洗堰。凄い技術です。

洗堰を渡って南郷への道からは 洗堰の向こう南郷の地にどっしり座った袴腰山 その右に鉄塔のある岩間山が見える。夕暮れまじか 登れませんでした、この袴腰山周辺にも古代の製鉄遺跡群 南郷製鉄遺跡群が点在する。振り返ると湖南アルプスの山々がくっきりと見え、瀬田川の川岸は宇治と湖岸を結ぶ幹線道路。ひっきりなしに車が通る。巨大な琵琶湖の水を制御する洗堰の存在は、今もこの南郷が関西の重要拠点である。

古代と今と かつて 日本の形成に大きな足跡を残した製鉄遺跡群があったことなど、もう遠いかなたに忘れ去られ、また今 関西の水瓶 琵琶湖の水を制御する洗堰がこの地にある



陽が落ちた夕暮れの瀬田川 南郷より湖南アルプスを眺める 2009.7.12. 18:15



ことも忘れられつつある。

でも 湖南アルプスが見下ろすこの湖南の地は昔も今もやっぱり 関西 日本の重要地点。いずれ股脚光を浴びるときがくるかもしれない。南郷洗堰 瀬田川の土手に登って、そんな暮れ行く南郷の夕景にしばし見とれる。

湖南アルプスに登って、湖南の古代製鉄遺跡群が散らばる湖南の風景を眺められたこと そして 南郷洗堰の上をやつと歩けた満足感と長い walk に足ももう限界。洗堰の傍のうどん屋にはいって、生ビールを飲み干して一日の疲れを癒す。

南郷の洗堰からバスに乗って JR 石山駅に着いたのは日もとっぷり暮れた午後7時。

やっと 私のイメージの中で、琵琶湖から大阪湾まで淀川がつながった一日でした。

また、一度歩きたかった湖南アルプス そして、そこから見る湖南の景色にも満足。古代の近江の重要性が琵琶湖ばかり頭が行っていましたが、湖南アルプスから見る湖南の古代鉱物資源地帯 そして、大和への道も目で捕まえることが出来ました。

古代近江の国がなんとなく四角の中に入ったような気がしています。

2009.7.12. 石山からの新快速に揺られながら

By mutsu Nakanishi

## 【 参考 和鉄の道 file 】

### 1.【鉄のモニュメント】「高溶接性・強度・靱性を兼ね備えた高級高強度厚鋼板の実用化の先駆」

関西最初的大型揚水発電所「喜撰山発電所」を訪ねて 宇治川 Walk 2009.5.10.

<http://192.168.1.2:9000/shares/www2/2009htm/2009iron/9iron06.pdf>

### 2. 大和政権を支えた近江国の鉄 瀬田丘陵の製鉄地帯

<http://192.168.1.2:9000/shares/www2/dock/iron/jstlbb13.pdf>

### 3. 北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk

<http://192.168.1.2:9000/shares/www2/dock/iron/5iron01.pdf>

### 4. 瀬田丘陵 の源内峠製鉄遺跡・野路小野山遺跡を訪ねて

大型量産製鉄炉を確立し、古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術

<http://192.168.1.2:9000/shares/www2/dock/iron/7iron03.pdf>

### 5. 比叡山延暦寺造営を支えた生産工房 上仰木製鉄遺跡 帰路は 比叡と京 都を結ぶ「古代の鉄の道??? きらら坂・雲母坂」ハイク

<http://192.168.1.2:9000/shares/www2/dock/iron/6iron04.pdf>

### 6. 愛媛大・今治市共同シンポジウム 「鉄 と古代国家 今治に刻まれた鉄の歴史」

四国で初の古代製鉄炉 高橋佐夜ノ谷 2 製鉄遺跡 発掘報告会

<http://192.168.1.2:9000/shares/www2/dock/iron/6iron15.pdf>



湖南アルプス 堂山の向こうに広がる  
「 左側 南郷 見えないが堂山の山麓 田上 右側 瀬田丘陵 」の  
古代近江湖南の製鉄地帯

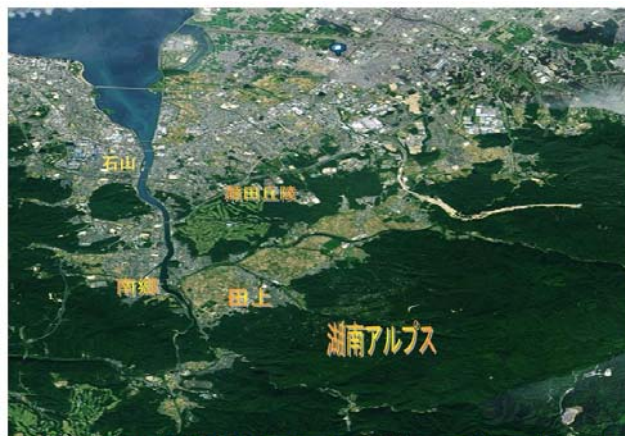


瀬田川 南郷の洗堰 瀬田 大川川より 湖南アルプス (左 堂山 中 安曇 右 太神山) 2009.7.12.  
左側には多の山と、安曇川から大川川にかけての山脈が連なる。 堂山へ下る。





湖南アルプス[太神山・堂山] & 南郷洗堰Walk 2009. 7. 12.



湖北・琵琶湖西岸・彦坂山から湖南アルプスにかけては、鉄鉱石などの鉱物資源帯

JR石山駅→バス→湖南アルプス登山口→泣不動→太神山(標高600m)(往復)→錦ダム→堂山尾根→  
11:25 11:50 13:13 14:00 15:03 15:53  
→堂山・新免分岐→上田・新免バス停→上田上里バス停→バス→南郷洗堰→バス→JR石山駅  
16:10 17:25 18:05 18:15 19:00



## 湖南の製鉄遺跡群が並ぶ鉱物資源帯 2009.7.12.



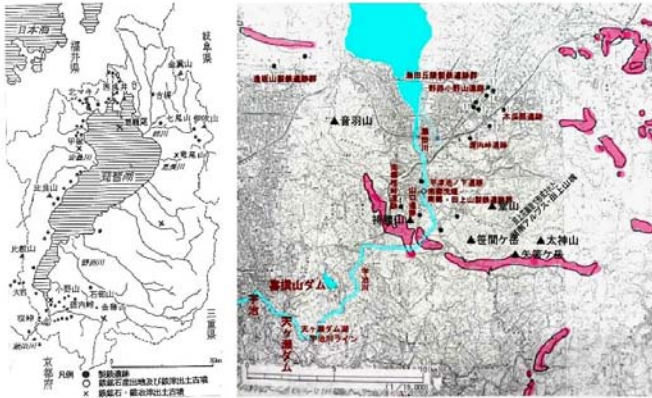
近江 湖南アルプス・南郷洗堰Walk 断面 2009.7.12

[illegible]

| 近江 琵琶湖南 古代の製鉄関連遺跡群 |           |          | 近京産業文化センター 遺跡マップから学ぶ歴史 |                  |            |                                       |
|--------------------|-----------|----------|------------------------|------------------|------------|---------------------------------------|
| 製鉄遺跡群              | 遺跡名称      | 遺跡所在地    | 市区町村名                  | 遺跡種類・遺構          | 遺跡時代       | 備考                                    |
|                    | 近江国国分内野   | 大津市      | 大津市                    | 宮造跡、敷地内製鉄・土産工産管理 | 奈良・平安      | 瓦葺堀・瓦                                 |
| a                  | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 湖内小野     | 湖国南大坂町                 | 大津市              | 製鉄跡        | 鉄滓                                    |
| a1                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 野狐小山     | 草津市野狐町                 | 草津市              | 製鉄跡        | 所長<br>製鉄跡・製鉄所・煎茶・高土埴物庫・焼土・鉄屑・焼炭・鉄心・鉄片 |
| a2                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 北土原      | 草津市野狐町                 | 草津市              | 製鉄跡        | 鉄滓・煎茶・濃煮器(7~8世紀)                      |
| a3                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 草津南遺跡    | 神保町・4丁目                | 大津市              | 鉄滓散布地      | 鉄滓                                    |
| a4                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 月輪南五遺跡   | 月輪町2丁目・一里北の丁目          | 大津市              | 濃煮器・鉄滓散布地  | 奈良・平安<br>濃煮器・鉄滓                       |
| a5                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 月山遺跡     | 南近町                    | 大津市              | 窯跡・鉄滓散布地   | 古墳→奈良<br>濃煮器・土師器                      |
| a6                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 磯・寛土遺跡   | 南近町                    | 草津市              | 濃煮器・鉄滓散布地  | 濃煮器・鉄滓                                |
| a7                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 三池遺跡     | 南近町                    | 草津市              | -          | -                                     |
| a8                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 湊浜古遺跡    | 草津市野狐町                 | 草津市              | -          | -                                     |
| a9                 | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 金浜遺跡     | 草津市野狐町                 | 草津市              | -          | -                                     |
| a10                | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 岡田西古遺跡   | 草津市西分町                 | 草津市              | -          | -                                     |
| a10                | 湖国丘陵製鉄遺跡群 | 轉倉遺跡群    | 野狐町                    | 草津市              | 球倉生産工場     | 白炭・所長<br>濃煮器・煎茶・濃煮器・土師器・製石器           |
| n1                 | 南濃製鉄遺跡群   | 南濃遺跡     | 南濃町3丁目・石山南端町           | 大津市              | 製鉄跡        | 鉄滓                                    |
| n2                 | 南濃製鉄遺跡群   | 平塚池・下池遺跡 | 平塚1丁目・平塚1丁目            | 大津市              | 窯跡跡・製鉄跡・窯跡 | 特生・古墳・濃煮器                             |
| n3                 | 南濃製鉄遺跡群   | 山口遺跡     | 南濃町6丁目                 | 大津市              | 窯跡         | 奈良・平安<br>濃煮器・鉄滓                       |
| n4                 | 南濃製鉄遺跡群   | 南濃644    | 南濃町丁目                  | 大津市              | 製鉄跡        | 所長                                    |
| n5                 | 南濃製鉄遺跡群   | 平山遺跡     | 石山南端町・南端4              | 大津市              | 製鉄跡        | 所長                                    |
| r1                 | 用上山製鉄遺跡群  | 関ノ津東遺跡   | 関ノ津丁目                  | 大津市              | 製鉄跡        | 古代?                                   |
| r2                 | 用上山製鉄遺跡群  | 小山池遺跡    | 関ノ津丁目                  | 大津市              | 鉄滓散布地      | 古代?                                   |
| r3                 | 用上山製鉄遺跡群  | 大坪遺跡     | 用上山平野町                 | 大津市              | 製鉄跡        | 古代?                                   |
| r4                 | 用上山製鉄遺跡群  | 西町遺跡     | 西町3丁目                  | 大津市              | 鉄滓散布地      | 古代?                                   |







湖南に分布する石灰岩等の古生層への  
花崗岩貫入による接触交代鉱床と湖南の製鉄遺跡



瀬田川 南郷の対岸黒津 大戸川土手からの湖南アルプス 2009.7.12.

左 堂山 太神山 正面 笹間ヶ岳

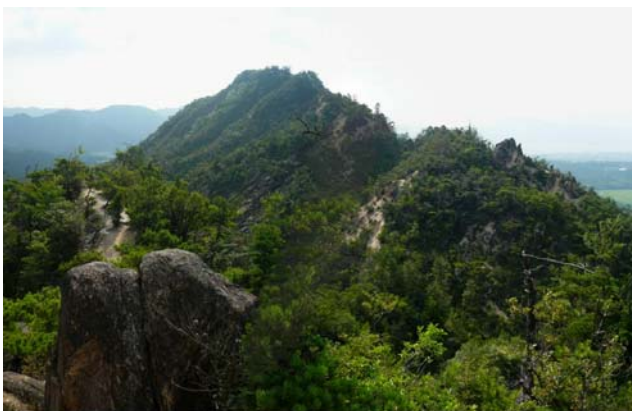
堂山や笹間ヶ岳の山麓「田上」里や「関津」にも製鉄遺跡があったという



一番奥でピラミダルな美しい姿を見せる盟主 太神山(田上山)  
古くからの信仰の山 田上不動尊不動寺が山頂に



田上不動尊 不動寺 本堂  
切立った崖の巨岩(岩盤)に接して 舞台造りの本堂が建つ 2009.7.12.



ナイフリッジのやせ尾根が続く湖南アルプス 堂山  
総ダム・堂山の尾根筋より 2009.7.12.



湖南アルプス 堂山の向こうに広がる  
「左側 南郷 見えないが堂山の山麓 田上 右側 瀬田丘陵」の  
古代近江湖南の製鉄地帯



湖南アルプス堂山の尾根筋より眺める湖岸を東西に伸びる瀬田丘陵 2009.7.12.



堂山周辺より 琵琶湖遠望 2009.7.12.

手前緑の帯 東西に流れる大戸川  
その向こうに瀬田丘陵 琵琶湖 琵琶湖の背後に比叡山  
瀬田丘陵の中 右手に見えるのが龍谷大学キャンパス・源内峠製鉄遺跡周辺





瀬田丘陵遠望 湖南アルプス 堂山・南郷洗堰より 2009.7.12

右端に第二名神との草津田上IC すぐ右横が水尻原駅直道跡のある立命館大草津キャンパス



湖南アルプスを左手に 瀬田川 南郷洗堰（上流側） 2009.7.12



JR石山駅から湖南アルプス登山口へ 2009.7.12.

音羽山山塊と田上山塊の狭い間を瀬田川が南北に流れ下る  
近江湖南（東に瀬田・田上/西に石山・南郷）

北に琵琶湖 南には湖南アルプスと呼ばれる田上山塊  
古代の鉱物資源帯で古代の製鉄技術を量産技術に育んだ地  
今は関西の水翼「琵琶湖」の流水量を管理する瀬田川南郷洗堰がある  
市街地に隣接地であるが 今も昔も 日本を支える重要な場所である



瀬田川の琵琶湖からの流れ出し口 瀬田唐橋をバスで渡る 2009.7.12.



瀬田川東岸を離れ、黒津で東に大戸川の橋を渡ると田園地帯の向こうに湖南アルプス

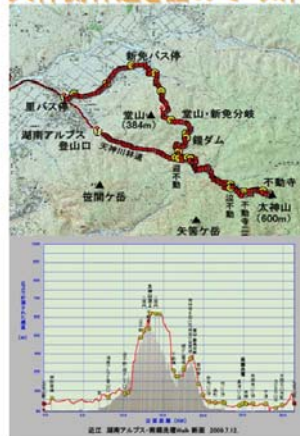
ピラミダルな美しい姿の太神山を正面に眺めながら  
田園地帯を通り抜け、堂山の麓 田上里の集落へ



湖南アルプスの主峰太神山からまっすぐ谷間を流れ下ってくる天神川が里に出る出口が田上里集落  
すぐ東に堂山の岩峰が聳える  
この田上里集落のはずれから天神川に沿って谷間を天神川林道が奥へ伸びている。  
この道は信仰の山太神山頂上にある不動寺の参道でもある

湖南アルプス登山口バス停周辺 田上里集落の外れ 天神川林道入口

## 天神側林道を詰めて 太神山頂上へ







天神川林道 鏡ダム・堂山への登り口 若女谷



山腹を雑木が覆っていて良く見えないが、山腹はごつごつの花崗岩質の岩肌が幾筋にも別れ、荒々しいナイフリッジの尾根筋が見える 湖南アルプスの名のとおりである  
湖南アルプス 天神川林道の奥で 2009.7.12.



天神川林道を詰め、その終点から右手へ花崗岩質の太神山の尾根筋へよじ登って行く  
東海自然歩道として良く整備されているので 道の心配はないが、視界の開けぬ森の中の道が直上まで続く



太神山への登山道から遠望する田上・南郷の里 2009.7.12.



太神山の尾根筋に登ると道はなだらかな  
森の中一本道を登ってゆく



登山口から約30分 太神山までのほぼ中間点  
道脇の巨岩に刻まれたお不動さん「泣き不動」  
相変わらず 樹林帯の中の道 時折 向かいの矢筈ヶ岳が垣間見え、  
随分 登ってきたことが解る

この泣き不動のすぐ上ところで矢筈ヶ岳への道を分岐「枝道多し」の注意書。  
湖南アルプスでは5万分の1の地図では この東海自然歩道の道を除いて、  
山への登山道が記載されておらずあまり役に立たない。  
かつ花崗岩質の岩山 枝道の多い急峻な崖の尾根。低山と侮ると願いたい



矢筈ヶ岳への分岐 周辺 2009.7.12.







太神山頂上近く 不動寺 二尊門  
境内を抜けてゆくと太神山頂上である

2009.7.12.



赤いよだれ掛けを掛けた地蔵の前を過ぎ 信楽側からの細い車道が合流  
道幅が広くなるとまもなく不動寺である



太神山山頂部 不動寺に到着 2009.7.12

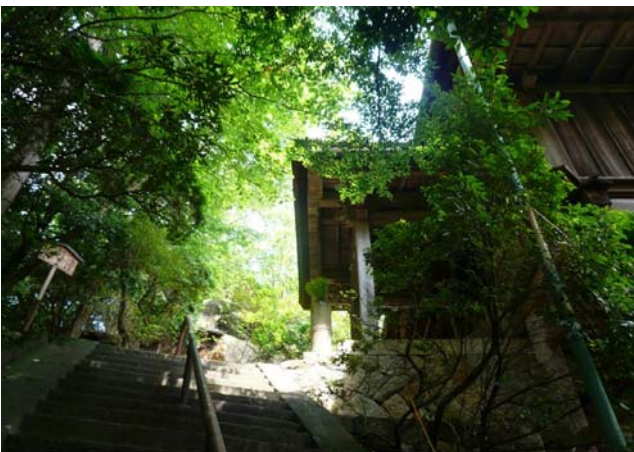


不動寺の境内

この深山大きな杉木立の中、休憩所を兼ねた社務所前に突然車があるのでビックリ。  
信楽側からはここまで車道が着いているようだ。  
本道はまたさらにきつい階段を登った山の頂上部



不動寺本堂は太神山の頂上部にあるので、境内からさらにきつい階段を登る



田上不動尊 不動寺 本堂 2009.7.12.







田上不動尊 不動寺 本堂  
切立った崖の巨岩(岩棚)に据って 舞台廻りの本堂が建つ 2009.7.12.



湖南アルプスの盟主 太神山山頂 2009.7.12.

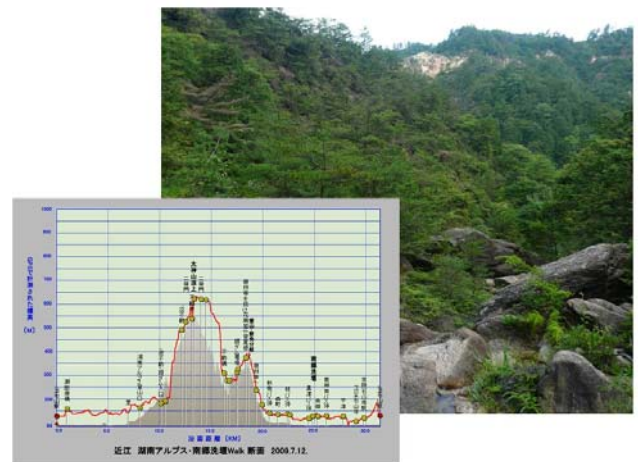
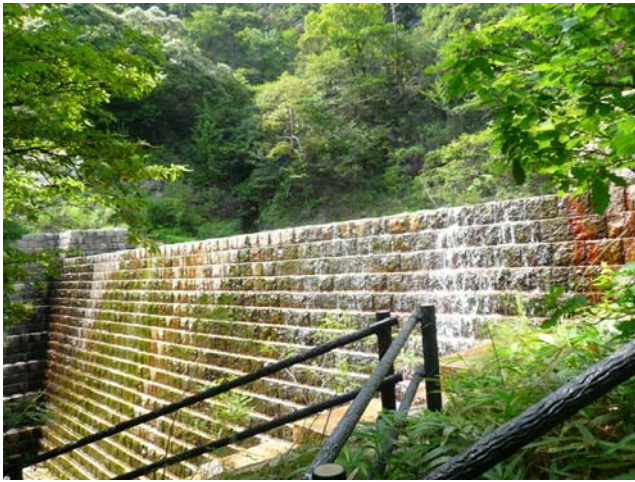


不動寺境内の杉の巨木 2009.7.12.



迎不動のところ天神側の向こうに急峻な岩壁を見せていた若女がきき。時間ちょうど15:00 夏なので日暮れるまで長いので、ゆっくり多いでも大丈夫。天神川を渡って、巨岩ゴロゴロの急峻な谷に設けられた懸崖の横き登ってゆく。









堂山を中央に 左側 南 笹間ヶ岳 そして南郷  
右側 北 瀬田丘陵の向こうに琵琶湖遠望 2009.7.12



鍾ダムから樹木に覆われ、視界の利かないだらかな谷間に分け入ってゆくと10分ちょっとで、視界の利く稜線尾根 堂山へと続くナイフリッジの痩せ尾根が見え、右手には幾筋かの痩せ尾根が重なる向こう遠く東西に帯状に伸びた瀬田丘陵 そして琵琶湖が見えてくる。



湖南アルプス 堂山周辺  
花崗岩質のやせ尾根の景観 2009.7.12.



堂山周辺より 琵琶湖遠望 2009.7.12.  
手前緑の帯 東西に流れる大戸川 その向こうに瀬田丘陵 琵琶湖 琵琶湖の背後に比叡山  
瀬田丘陵の中 右手に見えるのが龍谷大学キャンパス・源内峠製鉄遺跡周辺





堂山周辺より 瀬田丘陵遠望 2009.7.12.  
瀬田丘陵右端に 名神と第二名神の草津JCTと草津田上ICがみえる。  
このすぐ横が木瓜原製鉄遺跡のある立命館大草津キャンパス



堂山・新免の分岐  
新免への下りの厳しいやせ尾根 2009.7.12  
堂山・新免の分岐で、16時を越えた。一本道ではあるが、地図がなく、ルート確認もほとんどないので、この迷いやせ尾根が心配。  
堂山の向こうへの道も良くわからず、堂山をビストンする時間がないので、展望を楽しみながら、そのまま新免へ下る。



湖南アルプス新免への降り尾根筋より眺める湖岸を東西に伸びる瀬田丘陵 2009.7.12.  
瀬田丘陵右端に 名神と第二名神の草津JCTと草津田上ICがみえる。  
このすぐ横が木瓜原製鉄遺跡のある立命館大草津キャンパス



堂山から新免集落への下山路で 2009.7.12.

瀬田丘陵を正面に 背後に堂山の岩峰を横めながら、踏み跡を見失わないように注意しながらやせ尾根を下り、30分ちょっとでナイフリッジのやせ尾根を越える。どこへでも降りられそうなのですが、知らない場所での地図なしの道、ほっとして、堂山を見上げながらしばし休憩。  
樹林帯の中に入るとまもなく新免の集落に出た。集落を抜け、5時過ぎに新免のバス停。  
まだ日が高いのでラッキー  
堂山の山道 この周辺は古代の田上山製鉄遺跡群 ひょっとして「たたら」の痕跡を探しながら 里集落まで歩いて、そこから バスで今日の最終目的地 南郷洗堰へ



堂山の北山麓「上田上 新免」集落 17:25 日没前に郷におりました

古代の製鉄遺跡群があった堂山西山麓の山裾を  
新免集落から天神川沿いの枝・里集落へ

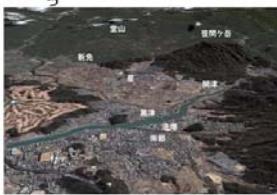
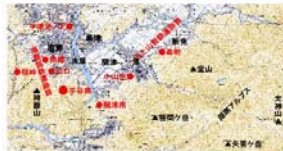


田上 新免集落から見た堂山 2009.7.12.





日暮れ 田上 枝集落と里集落の間を流れ下る天神川の橋からの堂山 2009.7.12.



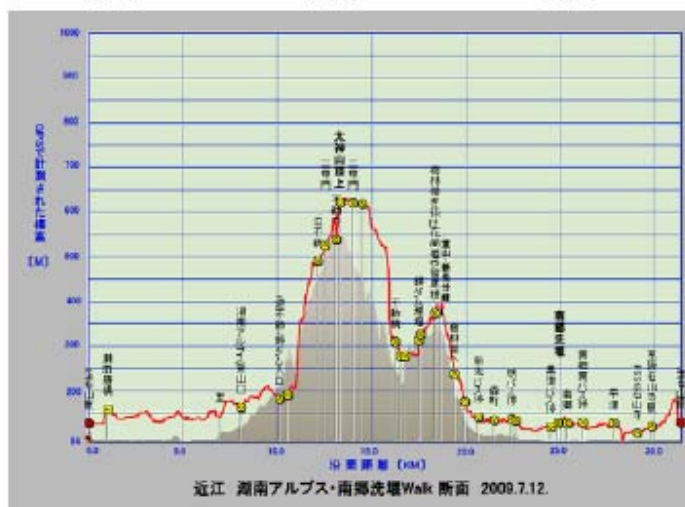
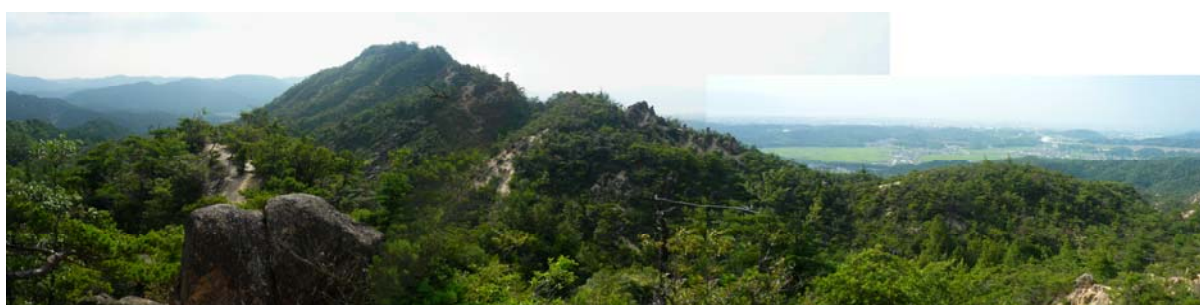




瀬田川 南郷洗堰(下流側)と洗堰の上を渡る黒津／南郷を結ぶ道路 2009.7.12.



陽が落ちた夕暮れの瀬田川 南郷より湖南アルプスを眺める 2009.7.12. 18:15



- JR 石山駅: 11:25⇒(路線バス)⇒ 湖南アルプス登山口から太神山コース(往復)  
 湖南アルプス登山口:11:50→迎不動・鎧ダム分岐:12:18→不動橋:12:24→泣不動 13:13→不動寺二尊門:13:22→  
 →不動寺境内:13:41→太神山頂上三角点(標高 600m)→→迎不動・鎧ダムから堂山ルート分岐まで戻る:15:03
- 鎧ダムから堂山ルートを登って新免へ降りる  
 鎧ダムから堂山ルート入口 15:03→オランダ堰堤 15:10→鎧ダム(砂原)15:40→堂山痩せ尾根取りつき:15:53  
 →堂山(384m)新免分岐:16:10→堂山痩せ尾根を抜け樹林へ 16:45→新免バス停:17:25
- 新免バス停から南郷洗堰を見学して JR 石山駅へ  
 →森町[古代製鉄遺跡周辺]:17:46→上田上里(天神川):18:05⇒(路線バス)⇒黒津(大戸川):18:10→  
 →南郷洗堰 18:18→南郷 Walk18:47 ⇒(路線バス)⇒JR 石山駅 19:00